

8/4 (日) 町職工組合、学校施設でボランティア活動

茨城町職工組合（江橋隆一組合長）はこの日、小・中学校施設の修繕などを行う学校奉仕作業を実施しました。組合員は事前に各校から要望があった、縄跳び用の台や花台、つい立ての製作や、教室の掲示板、トイレのドア修繕などを行い、二学期から使用することができるようにしました。

この活動は、組合員が持っている様々な技術を生かし、町の児童・生徒に役立てばと、同組合が昭和44年から毎年恒例行事として実施しているものです。

今年は、例年にも増して暑さが厳しい中での作業となりました。組合員は、「学校は我々にとっても思い出の場所であり、自分たちの作ったものが、子どもたちに使ってもらえることは何より嬉しい。」と話していました。

各学校からは、「毎年子どもたちのために暑い中実施していたいて、大変感謝しております。」との言葉がありました。



8/11 (日) 北関ゆるキャラ&グルメまつり in ケーズデンキスタジアム水戸

ケーズデンキスタジアム水戸で行われた、水戸ホーリーホックと栃木S.C.の試合において、「北関ゆるキャラ&グルメまつり」が行われました。北関東3県にホームタウンを置くプロサッカーチームでは、お互いが対戦する試合を「北関東ダービー」と呼び、様々なイベントを開催しています。

この日は、各県を代表するハッスル黄門（茨城）、とちまるくん（栃木）、ぐんまちゃん（群馬）のほか、水戸市のみとちゃん、茨城町のひぬ丸くんなど計10体のゆるキャラが参加。北関東ダービーを応援するとともに、北関東自動車道の全線開通により身近になった北関東3県の観光やご当地グルメを来場者にPRしました。



8/24 (土) 図書館におはなし隊がやってきた！

茨城町立図書館に「本とあそぼう 全国訪問おはなし隊」がやってきました。おはなし隊は出版大手の榊講談社が実施している事業で、全国各地をたくさんの絵本をのせたキャラバンカーで巡り、子どもたちに絵本の読み聞かせを行っています。

この日、図書館におはなし隊の車が到着すると、集まった子どもたちは車の中の図書館から思い思いに気に入った絵本を手にとり読んでいました。

また、図書館内の「おとぎのくに」の部屋では、おはなし隊隊員による読み聞かせが行われ、54名の親子連れなどが絵本や紙芝居を楽しみました。



8/18 (日) 熱戦！ドッジボール大会

県立茨城東高等学校体育館において、茨城町子ども会育成連合会主催による「茨城町子ども会球技大会」（ドッジボール）が行われました。

この大会は、町内の子ども会員の体力向上と、スポーツをと おして子ども会同士の交流を深めることを目的として、毎年実施されています。

子どもたちは、保護者や各校の先生たちが応援する中、猛暑の中でも伸び伸びとプレー。相手チームに全力でボールを投げる姿、そして軽快にボールを避ける姿が見られました。試合の結果、優勝した連合サンダース（駒場小学校区）と準優勝の南栗崎連合（川根小学校区）は、後日行われる県大会に出場します。



皆でつくろう みんなで守ろう 美しい涸沼

茨城町では、涸沼やその周辺の環境を守り、多様な生態系を次世代へ引き継ごうと様々な方のご協力を頂いております。これらの環境保全活動についてご紹介します。

7/7 (日) 涸沼生き物観察会

涸沼生き物観察会は、昨年5月に茨城町水と自然を守る会（以下守る会）、生活協同組合パルシステム茨城、他3団体により組織された「涸沼生態系再生プロジェクト」の環境保全事業の一環として、パルシステム茨城が主催となり開催されたものです。

当日は猛暑の中での開催でしたが、児童や保護者など58名が参加。守る会の水質浄化施設の見学、涸沼自然公園内での水辺の生き物観察などを行いました。

水質浄化施設では、守る会の清水澄会長から、涸沼の水質浄化のためのヘドロの分解システムについて、生物多様性の考えを踏まえて説明がありました。

水辺の生き物観察では、子どもたちが網を手にし、トンボやメダカ、ヤゴなど、たくさんの生き物を捕まえました。慣れない手つきでしたが、絶滅危惧種に指定されたニホンウナギや準絶滅危惧種のトウキョウダルマガエルなどの希少種もみることができました。インストラクターから生き物の分類と生態について説明があり、「ここは昔の田んぼに生息していた様々な生き物が確認できる貴重な場所です。みんなで守っていきましょう。」と話がありました。

この観察会では、身近な生き物をと おして環境保全の大切さや涸沼周辺の豊かな自然について学ぶことができました。



7/15 (月) 涸沼の水質浄化作戦

7月15日(月)の海の日、広浦漁港において今年で4回目となる涸沼の水質浄化作戦が実施されました。この作戦は環境保全団体である茨城町さわやかエコの会（以下エコの会）が主体となり実施しています。

当日は近隣の児童・生徒、家庭排水対策協議会、大涸沼漁業協同組合、地域住民など約130名が集まり、河川や湖沼の水質を改善する作用があるといわれている有用微生物群を培養して作った「EMダンゴ」3200個と「EM活性液」1トンに投入しました。これらはエコの会会員の皆さんがボランティアで1か月以上前から準備してきたものです。

団子などの投入に際し、エコの会の郡司亘会長から「将来的には、ラムサール登録地として国際的にも誇れる涸沼を目指し、涸沼の環境保全の重要性について、これからを担う子どもたちに伝えていきたい。」とあいさつがありました。

エコの会では、涸沼の水質浄化には各家庭における生活排水対策が大切であるとの考えから、食用廃油を再利用した固形石けんと洗濯用の粉石けんを作成し、その使用を推進しています。こういった活動をと おして、これからも循環型社会の構築と各家庭での環境に配慮した生活スタイルを提唱していきます。

